



4号

2022.1

さがりハ通信



ワクチンの仕組み



新年あけましておめでとうございます。

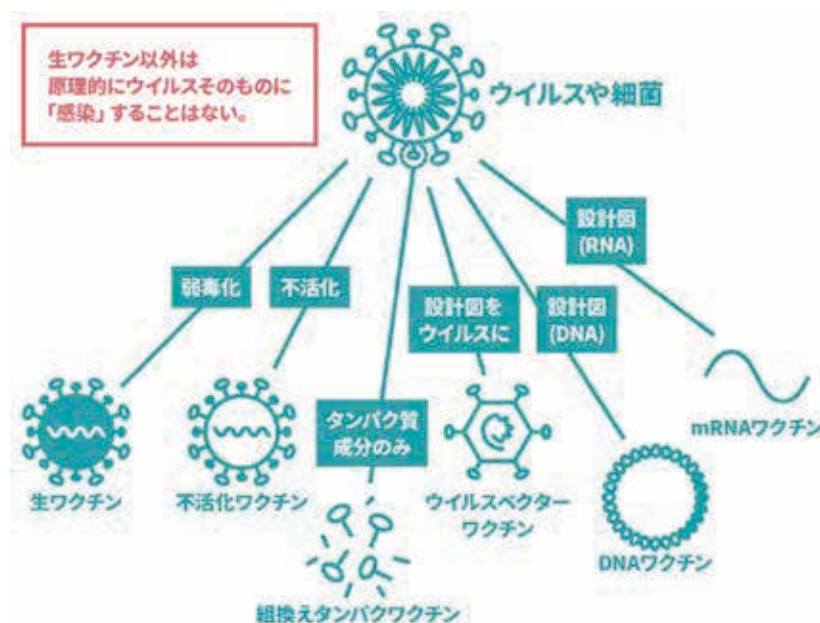
内科の永井です。新型コロナウイルス感染症の影響が社会に広がり、まだまだ予断を許さない状況が続いております。みなさまも何かと気を遣うことが多い日々が続いているかと思います。今回はこの新型コロナウイルスを始めとした様々な感染症の予防として使われるワクチンについて、少しお話ししたいと思います。

ワクチンは感染症の予防において最も重要で効率的な

手段です。そのため、世界各国でワクチンの予防接種が行われており、日本でも、乳幼児から高齢者まで様々なワクチン接種が行われていることはご存知の通りです。感染してからでは治すことが難しいウイルス感染症だけでなく、様々な薬に耐性を持ってしまった菌への対策にも使われます。

ワクチンはそれを接種することで体内に侵入した病原体に対する免疫のもと(抗体)を作ります。作用の違いによりいくつかの種類があります(以下の通り)。

次ページに続く▶



ワクチンの種類



●生ワクチン：BCG、麻疹、風疹、水疱瘡、おたふくかぜ、带状疱疹など

ウイルスや細菌の毒性を弱めたものを原材料として作られます。接種すると、その病気に自然にかかった場合とほぼ同じ免疫力がつくことが期待できます。

●不活化ワクチン：肺炎球菌、日本脳炎、インフルエンザなど

ウイルスや細菌の感染力を失わせたものを原材料として作られます。1回接種しただけでは必要な免疫を獲得・維持できないため、一般に複数回の接種が必要です。

●組み換えたんぱくワクチン：ヒトパピローマウイルス、B型肝炎、带状疱疹など

ウイルスや細菌を構成するたんぱく質から作られます。不活化ワクチン同様に1回接種しただけでは必要な免疫を獲得・維持できないため、一般に複数回の接種が必要です。

●mRNA ワクチン：新型コロナウイルス(ファイザー製、モデルナ製)

ウイルスの表面に存在するスパイクたんぱく質の代わりに、このスパイクたんぱく質を作製するための設計図であるmRNAが脂質の殻に入っているものです。このmRNAを基に体内でスパイクたんぱく質が作られ、それに対する抗体が作られるという仕組みです。

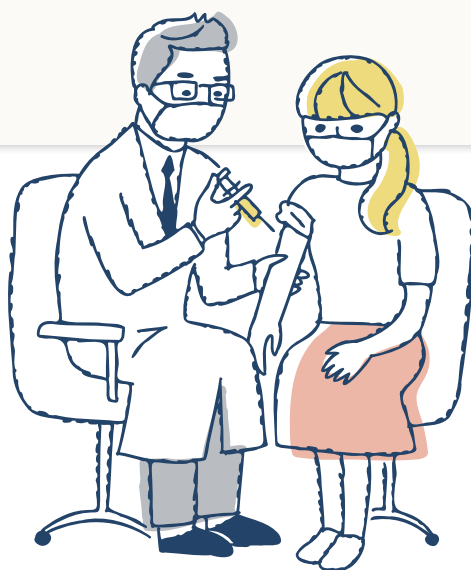
●ウイルスベクターワクチン：新型コロナウイルス(アストラゼネカ製)

上記のmRNAが脂質の殻の代わりに無害化された別のウイルスに入っているものです。

●DNA ワクチン

開発中のワクチンです。

このようにワクチンは接種するだけではダメで、その後に身体の中の細胞にしっかりと働いてもらうことで免疫が得られます。一概には言えませんが、副反応と呼ばれる症状は免疫を獲得するためのプロセスでもあります。また、ワクチンを接種した後は、激しい運動や過度の飲酒などは控える等、注意事項を守ることも重要です。いかがだったでしょうか。これを読んでいただいた皆さまが少しでもワクチンに対する理解ができ、納得してワクチン接種を受けて頂く参考となれば幸いです。



さがみりハビリテーション病院

内科 医師 永井 太郎

回復期リハビリテーション病棟を増床しました

近年の高齢化に伴い医療・介護を取り巻く状況は益々厳しいものとなっており、地域におけるリハビリテーションに対する需要も大きく高まっています。そのような背景から当院はリハビリ専門病院として、その機能をさらに強化すべく、12月1日より、第1病棟24床を「医療療養病棟」から「回復期リハビリテーション病棟」へ転換いたしました。これにより全病棟がリハビリの病棟となりました。

ここでは改めて「回復期リハビリテーション病棟」についてご紹介したいと思います。

みなさんは「回復期」という言葉を聞いたことがありますか？

医療の世界では病気やケガをし、治療に専念する時期を「急性期」と呼びます。最近ではこの時期から積極的にリハビリを行うことも増えていますが、まだ容体も不安定であり、実践的なリハビリを行うことが難しい時期でもあります。

容体が安定し、「急性期」を脱し、そのまま退院される方がいる一方で、リハビリが必要になる方も多くいらっしゃいます。一般的にこの時期は患者様の回復力が高い時期であり、この時期を「回復期」と呼んでいます。この時期に密度の高いリハビリテーションを行うことで身体機能や日常生活の活動力の回復に繋がりますと言われています。

「回復期リハビリテーション病棟」はまさにこの時期を担うための病棟であり、リハビリテーション医療をベースとし、医師を始め看護師、リハビリスタッフ、



▲作業療法の様子

薬剤師、管理栄養士、社会福祉士等々、さまざまな専門のスタッフが連携して患者様の回復や退院後の生活に向けた支援を行います。

「回復期リハビリテーション病棟」は制度上、主に脳血管疾患や運動器疾患を対象とすることが定められています。入院できる病気やケガの種類が細かく定められ、入院期間にも制限があります。詳しくはお気軽にお問合せください。

当院は、平成15年に相模原市で初めて「回復期リハビリテーション病棟」を開設して以来、リハビリテーションの提供に力を入れてきました。この度、全病棟がリハビリの病棟になることで、さらに地域に密着したリハビリテーション病院として近隣の医療・介護・福祉事業所の方々等と連携をとり、地域の方々の生活を支えていけるように努めていきます。

今後ともよろしくお願い致します。

さがみリハビリテーション病院

患者支援室 社会福祉士 萩原 野生



▼理学療法の様子



▼言語聴覚療法の様子



交通案内

アクセスマップ



■電車でお越しの場合

JR 相模線「南橋本駅」下車 西口より 徒歩15分

■バスでお越しの場合

- 「橋本駅」から来院される場合

神奈川中央交通バス【橋本駅 南口1番乗り場 橋58】

- ・下九沢団地行き→日電寮前下車→徒歩**2分**
- ・下九沢団地行き→下九沢団地→徒歩**2分**

- 「相模原駅」から来院される場合

神奈川中央交通バス【相模原駅 南口8番乗り場 相36】

- ・下九沢団地行き→日電寮前下車→徒歩**2分**
- ・下九沢団地行き→下九沢団地→徒歩**2分**

病院理念

愛し愛される病院

基本方針

地域の幸福な生活を応援すべく、
「自立と予防」を二本柱に掲げ、
医療・福祉の充実を目指す

病院概要

許可病床数 _____

130床(全床 回復期リハ)

診療科目 _____

内科、神経内科、整形外科、脳神経外科、
リハビリテーション科

診療受付時間 _____

平日 8:30~12:00

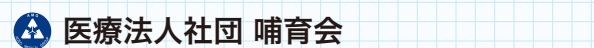
※診療科によって受付時間が異なるため、ホームページをご確認頂くか、お問い合わせください。

付帯施設

- ・通所介護事業所 ユースフルデイ りあくと
- ・訪問リハビリテーション
- ・居宅介護支援事業所 タイム
- ・訪問看護ステーション ルピナス
- ・訪問介護事業所 菜のはな
- ・サービス付き高齢者向け住宅 ユノトレメゾンさがみ

リハビリ体制

脳血管リハビリテーション、運動器リハビリテーション
 廃用症候群リハビリテーション



 医療法人社団 哺育会

さがみリハビリテーション病院

代表 ☎ 042-773-3211

〒252-0254

神奈川県相模原市中央区下九沢54-2

<https://sagami-rh.or.jp/>

